桐生 9秒98

陸上100メートル、日本人初10秒突破

陸上男子の桐生祥秀（21）＝東洋大＝が9日、福井市の福井県営陸上競技場で行われた日本学生対校選手権の100㍍決勝で9秒98の日本新記録を樹立し、日本人で初めて「10秒の壁」を破った。追い風1・8㍍の好条件下で力強いピッチを最後まで維持した。五輪の花形種目で、日本勢の長年の夢だった領域に足を踏み入れ、3年後の東京五輪に弾みをつけた。（4面に「人」、4、9、31面に関連記事）

100分の1秒まで表示する現行の電気計時では1968年にジム・ハインズ（米国）が9秒95で走り、世界で初めて10秒を切った。日本人は49年遅れで悲願の9秒台突入となった。国際陸上競技連盟によると桐生は9秒台をマークした126人目のスプリンターとなる。

日本勢は伊東浩司が98年アジア大会で日本記録を10秒00に更新したが、その後は足踏みが続いた。桐生は京都・洛南高3年だった2013年に10秒01。一昨年には追い風参考で9秒87をマークしたが、公認記録で9秒台には届いていなかった。

レースでは多田修平（関学大）に序盤こそリードを許したが、得意の中盤で加速して逆転した。

世界記録はウサイン・ボルト（ジャマイカ）が09年世界選手権で刻んだ9秒58。アジア記録はナイジェリア出身のフェミセウン・オグノデ（カタール）が15年に9秒91に伸ばした。中国勢では一昨年、蘇炳添が9秒99で走った。

日本陸上競技連盟が認めた最初の日本記録は三島弥彦が1911年に出した12秒0。106年を要し、新たな時代に突入した。

ブロックを蹴れなかったスタートで思い切り発進。多田修平に続く2番目の反応速度で飛び出すと、中盤でこのライバルを捉え、得意の後半で突き放した。9秒台を出す条件とされる秒速11・6㍍（時速約42㌔）の最高速度を出す力を、既に持っていると評されていた桐生。状態が万全でない中、1・8㍍と絶好の追い風にも助けられ、潜在能力を発揮した。

高校3年だった2013年に日本歴代2位（当時）の10秒01をマーク。以来、「9秒台の期待を全て背負ってきた」（東洋大の土江寛裕コーチ）。けがもあって何度も訪れた大記録樹立の好機を生かせず、今年は日本選手権で4位と敗れ、「タイムが出ないまま終わるのは嫌。（9秒台の）一番は俺が出したい。その気持ちを持ちながら走っていた」と失意を味わいながらも、「強い決意が、東洋大の学生として出場した最後の100㍍で快走を支えた。世界選手権個人種目の代表の座を逃す苦難もあった。「足をすくわれた」

重圧の4年間 乗り越え

日本のあまたのスプリンターが挑んでも破れなかった10秒の壁を、ついに突破した。ゴールした瞬間、「9秒99」の表示を見た桐生祥秀は「10秒00にならないで」と願った。記録が9秒98に確定すると、小躍りするように跳びはね、喜びを全身で表現。興奮した面持ちで「やっと、4年間くすぶっていた自己ベストが更新できた」。大きな節目のタイムを刻んだ達成感を発散させた。

記録への期待感は決して高くなかった。銅メダルを獲得した8月の世界選手権男子400㍍リレーのレース中に左太もも裏がいれんした影響で、十分な調整は積んでいなかった。

だが、気合の入った決勝では、前日まで全力でプロ

日本学生対校選手権の男子100㍍決勝で、9秒98の日本新記録を樹立し喜ぶ桐生祥秀＝9日、福井県営陸上競技場

桐生　祥秀（きりゅう・よしひで）小学校時代はサッカーのGK。滋賀・彦根南中で陸上を始め、京都・洛南高2年の12年に100㍍で18歳未満の当時世界最高の10秒19。13年は4月に10秒01。14年は日本選手権初優勝、世界ジュニア選手権3位。15年3月のテキサス・リレーで追い風参考ながら9秒87。400㍍リレーで16年リオデジャネイロ五輪銀メダル、17年世界選手権銅メダル。176㌢、70㌔。21歳。滋賀県出身。

名前【　　】

① 1968年に米国のジム・ハインズ選手が世界で初めて10秒を切ってから、桐生選手が日本人として初めて10秒を切るまで、何年遅れての9秒台突入ですか？

（　　）年遅れ

② 桐生選手は、どのような苦難がありましたか？それをふまえて、どのような感想を持ちましたか？

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

NIEワークシート/体育・保健体育・総合/
小学高学年～高校